

山行番 NO. 1707  
日時 2016. 10. 23 (土) 無風快晴  
山域 両神山 (1723m)  
コース 下土狩5:00-上落合橋発8:20-両神山12:02~30-上落合橋14:16-こまどり荘14:55 (宿泊) 8400円/一泊二日 (朝夕二食)  
標高差 上り=上落合橋1140~両神山1723m 高度差583m 累積高度差877m  
下り= "  
参加者 後藤 (L)、室伏、勝又、秋山、峰田、長谷、小島=7名

## 山岳会の山行はけっこうキツイ

秋合宿で奥秩父両神山へ山行。小生にとっては山岳会デビュー。

早朝長泉発、山中湖あたりから空が白み快晴の兆しを感じる。リーダーの運転で順調に距離を稼ぎ、河口湖、御坂峠、塩山、雁坂トンネル、大峰トンネル、奥秩父モミジ湖と進み、中津狭で一服。更に林道を走り、登山口の上落合橋に8:02着。距離約140kmを三時間で到着。初日は南天山の予定だったが、時間が有り両神山アタックに変更。登山口ではクルマが十台近く駐車しており駐車スペースが無かったが、すぐ先に一台分空いていた。登山口にはカウンターが設置され入山数をカウントしている。

リーダーは三時間の運転も意に介さず8:20にアタック開始(タフや)まずは八丁峠までの登り300m。木製の梯子を登り、大きくて水と緑に溢れ、時々紅葉の見事なV字谷を、十五分ほど歩くと、次はジグザグの登り道。林の中で清涼な登山道だがピッチが速い。付いて行くのがやっと(こりゃあ鍛えないとだめだ)峠までわずか45分。数分の休憩後、アップダウンの稜線歩き。

十分もしないうちに最初の鎖場。ヘルメットと革手で身構えて岩に取り付く。10mほどの岩場を登り、小ピークを幾つも越える。直線なら50mほどの距離だが、間には数十mの落差があり10分以上掛かかる。気が滅入るが、ピークで山々を望むと、愛鷹山系より一枚上手のすっきりとした紅葉が疲れを癒してくれる。思わずカメラを取り出し数枚。

岩場は十ヶ所以上あったらだろうか。最初の内は鎖に頼らず、三点確保で岩をホールドして攀じることが、段々と疲労が溜まる。両手で岩の手掛かりを掴み、脚力で身体を持ち上げるが、どうしても腕が伸びて腕力を使えない。鎖を使えば腕の位置が上下自由なので腕力で攀じることが出来る。鎖の有り難さを実感した。また岩登りのいいトレーニングとなった。

岩は火成岩で、硬くしっかりとしている。木の根も頑丈で、充分に手掛かりとなり、不安は少ない。あとで調べると、この山系は石英や大理石が多く産出し、かつては金銀が産出する鉱山地帯だったそうで、平賀源内も訪れたよし。一時間ほどで西岳到着、さらに一時間で東岳。途中下山中の女性と遭遇し一緒に歩く。東岳でやっと一服。三時間近く歩いて休憩とは厳しい。以前プロの登山家から『山ではスピードイコール安全』と言われたことを思い出す。

東岳からは明瞭に道が変わる。急峻な岩場は影を潜め、穏やかな稜線歩きとなった。三十分ほどで両神山到着。流石に休日の百名山で狭い山頂は人で溢れかえる。天気は快晴で風も無く、適度な気温と日差しで爽快。360°のパノラマを満喫。何処を向いても山また山、木々の緑と黄、赤の木々の葉、そして岩場の白、灰色と、目に優しい風景を堪能しながらむすびを頼張る。



上落合橋登山口

先行者



岩場が続く





帰路は来た道に戻らなかつたが、廃道となつた登山道で直接上落合橋に降れるとの事。分岐を見付けるのに多少手間取つた。このルートは地形図とGPSで見ると直接上落合橋に向つて居り、有り難い下山ルートだ。往路は峻険な岩場だただけに心底有り難い（このルートを見つけたリーダーに感謝）

下りは落ち葉に覆われ、疲れた足に優しい九十九折の坂道。木々が高くそびえ、下草もほとんどなく、日差しも遮られ、清々しい巨大な空間をのんびりと歩く。ときおりGPSを見ると現在位置とゴールまでの道のりが明快で安堵する（これは優れモノだ）

途中悪場でリーダーがザイルを出す。V字の濡れた岩斜面のトラバースでスリッパが怖い。この辺が山岳会の用意周到なところ。単独では少し辛い。登り三時間半の行程を、降りは一時間半。十五時前にこまどり荘到着。

奥秩父の山は雲取と甲武信しか知らなかつた。これほど奥深くスケールが大きいとは。感動。こまどり荘では気持ちの良い風呂と、屈託の無い酒盛りを堪能（酔っぱらつて失礼な言動、お許し下さい）



行蔵峠



A嬢



両神山頂上



## その他の記述（後藤）

1. 朝、飛ばし過ぎてトイレが心配だったが、中津峡を遡った、中双里に立派なのがあった。早朝だったがオジサンが掃除をしてくれていた。聞けば、週4回実施とのこと。ご苦労様です。ただ下山後、A嬢を八丁隧道の北登山口に送ったら、こちらには立派なトイレがあった。この登山口は、上落合登山口より70m高いが、南面からだ距離が長い。
2. 登山口のカウンターは「手動式」だった。
3. 10:23、往路を戻る、甲府昭和のA嬢と会う。私を見て以前、瑞牆山で話したという。そこで、これも「何かの縁」で、作業道コース下山を勧めた。A嬢は2Hで上って来たと言った。ちなみに我々は約3.5H。
4. 両神山山頂は狭くごった返していた。小さな祠があり見れば「南無大師遍照金剛」の小さな幟があった。古くここは、「イザナギ、イザナミの神を祀っていることから両神と呼ぶ」説がある。
5. 作業道コース入り口は、少し分かり難かった。同じコースを下る他パーティーも模索していた。結局、今は通行止めの「梵天尾根」を5分下った右に入り口があった。作業道コースは、特に大きな問題があるコースでない。もう少し手を入れ、皆に通行して貰ったらと思う。わざわざ、往路を戻るなんて詰まらない。登山は「周遊コース」がベストだ。
6. 危険を感じたら「躊躇なくザイルを出す」が鉄則。それを怠り、何人山に逝ったことか。
7. 久しぶりの「宿泊登山」で楽しかった。たまには皆で泊まりもイイね。宿での交流会は、大いに盛り上がった。



ちょっと、怖い





達成感イッパ〜イ！！



こまどり荘夕食



ツルリンドウ（？）